

政策会議 議事概要

- 1 日時 令和4年11月17日(木) 13時30分 ～ 14時30分
- 2 場所 第一会議室
- 3 出席者 総務局長、総合政策局長、財政局長、総務局次長、市長公室長、総務部長、総合政策部長、財政部長、資産経営部長、所管局長、所管部長
- 4 議題 次期一般廃棄物(ごみ)処理基本計画(案)について【方針決定】(環境局)

5 議事概要

[決定事項]

- ・次期一般廃棄物(ごみ)処理基本計画(案)を別紙のとおり決定する。

資源循環部長 ～資料に沿って説明～

(質問・意見等)

総合政策局長 まず計画目標の実現性について、目標設定を実現するための施策が十分配置されているのかという点で、やや心許なく感じている。

現行のごみ処理基本計画では、目標達成に向けて展開する各事業の効果を数値として見積もっているが、そういったものがないと、新たなごみ処理基本計画が、しっかり目標に向かって進められるのかどうか、判断できない。

計画目標に対して十分な施策が盛り込まれているのかどうか、改めて説明をしてもらいたい。

次に計画の目標について、家庭系のごみ量については、直近5年間平均493グラムに対して、394グラム以下にするという目標である。これを達成するためには、かなり思い切った施策が必要だと考える。食品ロスについては、8.3グラム/人日を削減するとあるが、その他に100グラムぐらい減量しなければならないところ、何をもって推進をしていくのか。目標倒れとなる可能性も、あるのではないかな。

プラスチックについては、少なくとも1万トンないしは1万5千トンを資源化するという枠組みを前提に、検討しているようだが、経費として20億、30億といった数字が並んでおり、持続的な運用が困難なものとなっている。検討の前提となる枠組み自体を、もう一度考え直すべきで。

また、プラスチックの分別収集及び再資源化については、1万トンが再生利用率に算入されている。計画内のタイトルは、「分別収集及び再資源化の検討」だが、その後に「可能であれば前倒しで実施」という記載もあり、事実上は実施するという宣言だと捉えられる可能性がある。現在の検討状況からすると具体化は難しいため、計画内での取り扱いは慎重にすべきである。

古紙については、資源化量を増やしていく努力を、これまで以上にしていくべきだと考える。トレンドとして、人口減少により相対的な古紙の再資源化量が減少していくということは理解しているが、原単位においても、このトレンドをそのまま受け入れているように見える。しかし、焼却されるごみの中に、資源化できる紙ごみ等が残っているということは、よくあることである。計画の中に古紙の徹底した分別の推進とあるが、この部分に更に力を入れ、古紙の資源化量を増やしていく努力が必要であり、数値目標に明確に反映してもらいたい。

具体的な事業については、まず、処理施設への搬入手数料の見直しとあるが、粗大ごみ料金の見直しを検討しているかどうか教えてもらいたい。

指定袋へのバイオマスプラ素材の採用の検討については、実施計画でも要求があったが、かなりのコストが見込まれているということから、実施計画案の検討の過程で不採択となっている。費用対効果についてどのように考えているのか。

生ごみ処理、生ごみ減量再資源化に取り組む市民へのインセンティブについては、インセンティブを提供する仕組みのイメージを教えてもらいたい。

適正処理困難物や市民が分別排出しやすいシステムづくりに関連して、スプリング入りマットレスの対応をどうするかというのは、大きな問題だと考えている。本市の許可業者に依頼すると、同マットレスの処理費用は1万7千円である。このような高額な処理費用がかかるために、許可を取っていない業者に依頼してしまうということも起きているようだ。政令市の中では横浜が2,200円、川崎が1,000円、相模原市2,800円、県内では市川市が2,620円、習志野市が3,300円で、いわゆる粗大ごみとして回収をして、処理ができていたという実績があるので、前向きに検討してもらいたい。また、処分しづらいサーフボードやヘルメットといったものについても改善していくということをし、しっかりと計画書の中に入れてもらいたい。

イベントを活用した再資源化の推進における割り箸の回収については、行動変容をアピールする非常に重要な事業であると思っているので、年1回とは言わずできるだけ多く実施してもらいたい。また、将来的に商店街での拠点回収などにも、事業を発展させてもらいたい。また、再生利用指定制度の運用を、早め始めてもらえればと思う。

保育所、病院の食品残渣の再資源化が記載されているが、重要な施策なので展開イメージをぜひ共有してもらいたい。所管との協議状況がわかれば教えてほしい。

ごみ焼却エネルギーの有効利用の部分に、オフライン輸送について記載されているが、具体的な想定や運用イメージがないということであれば、もう少し抽象的な表現にした方がよいのではないかと思う。

資源循環部長

十分な施策が盛り込まれているのかということについては、今回の計画のポイントは、ごみの減量とともに計画目標値に脱炭素の視点を取り入れ、その目標設定にあたっては、バックキャストの手法を用いたところがある。

その目標に出した取組みについては、これまでの3Rとその適正処理という方針は基本的に変えずに、磨き上げながら取り組む。それにプラスして、実施時期等はまだ決まっていないが、プラの分別収集等、新たな取組みも見込んだものとなっ

ており、それらの取り組みにより、効果は上げられるものと考えている。

また、計画に位置づける事業については、事業一つ一つ全てを、その費用対効果を綿密に分析して位置付けたとは言えないが、例えばバイオマスプラスチックの袋や、オフライン輸送等については、技術革新が日々進んでいる中で、検討することについては諦めず、この10年の期間に成果を上げていきたいという気持ちも込めて、計画に位置付けたところである。

廃棄物対策課長 粗大ごみ料金の見直しについては、現在のところ検討はしていない。

市民へのインセンティブ提供がどのようなイメージかということについては、まだ交渉の入口に入ったばかりだが、連携事業者のポイントなどを活用させてもらえればと考えている。

割り箸についても、どういうやり方がいいかということは、現在少しずつ検討しているところなので、そういったものが固まっていく中で、さらに回数を増やしていけるかということ、引き続き検討させてもらいたい。

生ごみ関連の保育所・病院の食品残渣についてのイメージとしては、現在、市内6小学校に設置している給食残渣再資源化の生ごみ処理機を設置する方向で、すでに保育所や病院には、今後一緒に検討していくことを打診しているところであり、本格的な検討は来年度になると考えている。

廃棄物施設整備課長 熱のオフライン輸送について、具体的に現在、どの清掃工場からだといった想定はなく、イニシャルコストや人件費等の課題がある技術とは認識している。

ただ、審議会の委員長から、脱炭素の視点から将来的に着目できる技術であり、計画の中に記載してもよいのではないかと助言があったので、今後廃棄物処理施設への導入が進むのか、そういった動向を注視し情報収集に努めていきたいという思いで記載をしている。

収集業務課長 適正処理困難物について、スプリング入りマットレス、サーフボード、ヘルメットという名称が出てきたが、サーフボードとヘルメットについては、従来許可業者のみとなっていたものを、今年11月から市の方で、粗大ごみもしくは不燃ごみとして収集を開始した。

このように、スプリング入りマットレスその他の処理困難物についても、できるだけ回収できるよう検討を進めていきたいと考えている。

総合政策局長 サーフボード、ヘルメットについては、後ほどで構わないのでどのような処理ルートなのかを教えてほしい。

スプリング入りマットレスは、大型の不法投棄物の中で多いものなので、ぜひ収集できるようにしてもらいたい。

プラスチックについてあまり回答がなかったが、回収の枠組みは、やはりもう1度検討し直したほうが良いと思う。一般財源に偏っていくような話もあり、千葉市の財政状況等も鑑みて持続可能な形にしていくためには、フルスペックではない回収方法も含めて検討すべきである。

バイオマスプラの袋の採用については、費用対効果の点から検討することすら不要だと思っているので、記載の削除を再考願いたい。

割り箸の関係での再生利用指定制度については、他の都市でも実施されていることなので、しっかり検討してもらいたいと思う。

- 資源循環部長 プラスチックの再資源化については、今回は、まず検討の俎上に上げられる、一つの基本的なパターンを用意した。財政状況も十分承知はしており、活用できる財源を現実的にどの程度の金額まで見込めるかということは、課題として認識をしているところである。
- 今後、来年度の政策協議に上げられるように、検討を進めていきたいと考えており、収集に関しても、例えば他都市の状況も参考として情報収集し、費用対効果を見ながら、週1回にするのか、あるいは月2回にするのかというバリエーションも考えていきたい。改めてそれについて整理ができた段階で、皆様に示していきたいと考えている。
- 総合政策局長 基金を活用せざるを得ないという状況だとは思うが、ある程度ストックがあるといっても、今後基金に入ってくるものが増えていく訳ではない。基金事業として何をどこまでやるのかというところを決めた中で、余裕がある財源の中でどこまでできるかというのを検討し、その上で、財源にプラスができるような国の制度があるのであれば考えるというようなステップが、むしろ現実的だろう。
- 財政局長 プラスチックの回収について、基金を少しずつ使っていくというパターンで、3億ずつ使っていくとしたとしても、19億かかることになる。これは1つのパターンだということではあるが、果たして現実的なパターンを組めるのかどうか非常に危惧している。
- 例えば3億基金を入れ、料金を上げたとき、一般財源はいくらになるのか、それが1億2億というレベルではなく10億ということになった場合は、やはり対応できないと思うので、現実的なレベルがどこなのかということ踏まえた上で、ぜひ検討をしてもらいたい。
- 青柳副市長 プラスチックのことにについては、まだ議論をスタートする段階の資料ということで、様々な選択肢をこれから詰めていく必要があるだろう。
- 検討と言いながら、計画の中の脱炭素の目標に織り込んでいるということもあるので、来年度の政策協議に向け、他都市が運用をスタートして見えてくること等、しっかりと知見を取りながら現実的な方法を検討してもらいたい。
- 総務局長 プラスチック分別収集を実施することの間接的影響で、売電収入が減少するという説明があったが、どういう部分で減少するのか教えてもらいたい。
- 廃棄物施設整備課長 プラスチックごみというのは、燃やすとエネルギーを発生させるため、清掃工場ではそのエネルギーを使って、電気に変換している。プラスチックごみが清掃工場に入ってなくなると、電気に変えるものがなくなってしまうので、減収してしまうことになる。
- 総務局長 プラごみを回収すると、その分は確かにごみの量は減り、脱炭素になるのかもしれないが、一方で清掃工場において燃料として使っていた分の代わりに別の燃料を燃やすことになると、結局はとんとんになってしまうといった話を聞いたことがある。トータルとしてどのあたりに落ち着かせるのがいいのかということ、プラごみの回収については今後考えた方がいいだろう。
- コラム等でプラごみ回収の背景について説明するのであれば、地球温暖化を防止するためにプラスチックごみを回収するが、そのために処理料も上がっていくというようなストレートな書きぶりの方が、いいのではないかと思う。

市長 多数の意見があり、その意見にも計画に反映させていくものと、これから検討していくものの二つがあると感じている。実施することの意味合いに疑問があるもの、効果があまり出そうにないものや、どこまで本当できるかどうか不明なものを入れ込んで数値を出している部分について、もう少し、個別に内容を見たいと思っている。計画に関係する部分について、考え方や記載をどうしていくのか、個別に整理をして、後で報告をしてもらいたい。

プラスチックごみの回収については、様々な課題があるということを市民が認識していないため、なぜ早期に実施をしないのかと言う方も多い。様々な課題があり、早期の導入がなかなか難しいという背景を理解してもらえよう、計画の中のコラムで説明していければと思う。このコラムの内容には、法律が制定される背景も含めてもらいたい。

プラスチックごみの回収については、これから精力的に検討してもらわなければならないと思うが、他の都市は、いわゆるフルスペックで実施するのか。それとも、フルスペックは無理なので、ある程度のところで抑えるといったものなのか。

資源循環部長 他の都市というのは、京都市と仙台市なのだが、基本フルスペックで実施すると聞いている。

市長 財源はあるということか。

資源循環部長 仙台市は、既に容器包装の回収を実施しているので、製品プラスチックでかかる費用のみで10億くらいという金額が出てきており、トータルでは概ね本市と同じくらいなのではないかと考えている。また、仙台市については、事業者と組んで再生計画を作り、そこで一括処理をし、再資源化するという手法で実施するという事まで確認できている。

市長 千葉市の考えている方法よりも、費用が抑えられる方法なのか。

資源循環部長 事業者によると考える。

市長 年間30億を、キャッシュでというのは厳しい。現在はフルスペック前提だと思うが、いくつかシミュレーションをしながら検討したい。コラムでも、そういった検討を行っているということを、後で説明できるような表現にしてもらえればと思うので、記述については改めて検討してほしい。

収集業務課長 スプリング入りマットレスは、回収できそうなのか。川崎が実施しているというのは、千葉市にない環境が川崎市にはあるということなのか。

市長 具体的に確認はしていないが、スプリング入りマットレスのマットレス部分を、かなりの人工を投入してはがすという作業があるので、その分の人件費というのは、どうしても新たに発生してしまう。

市長 川崎市はその作業を行っているということか。

収集業務課長 川崎市は直営で行っており、金属部分をくず鉄業界へ売るといった流れになっている。

市長 千葉市ではできないのか。

収集業務課長 かなりの人工を必要とする。

市長 川崎は人工が多いのか。

収集業務課長 川崎はごみ収集が直営なので、作業員という職員がかなりの人数いるのだろうと

思う。

市長

引き続き検討してもらえればと思う。

かなり意見が出ており、項目一つ一つをこの場では整理することが難しい。

目標値の実現度にも関わっているところもあるようなので、計画に反映する部分とそうではない部分に分けて、反映する部分、影響の大きい部分については、会議後に個別に整理して、考え方を改めて教えてもらいたい。

プラスチックの分別収集は極めて関心が高く、他都市ができていのになぜ千葉市はやらないのかと言われた時に、果たして2029年度でいいのかというのは、かなり厳しい状況であるだろう。様々な角度からの意見があったので、引き続き色々としミュレーションをして、安定的に回っていくものを目指して検討を続けてもらえればと思う。

先ほどの2市は来年度からということだが、国の補助はあるのか。

資源循環部長

製品プラについて既にあり、先般総務省から照会が来ていたので、千葉市に当てはめた場合いくらになるのか試算したところ、1億くらいだった。

市長

政令市だけ割落とされていたりすることはないのか。

資源循環部長

それはない。

市長

かなりの費用を要することを、政令市は社会の要請で行わなければならない状況にあるので、補助等の制度があればまた教えてほしい。

プラスチックごみの回収については、実施しなければならないことだと思うので、できる限り効率的に、市民の方にもご理解いただいた上で実施していきたいと考えている。

料金改定を実施する場合は、可燃ごみと不燃ごみを上げるということなのか、別の料金体系を新設するということなのか。

資源循環部長

可燃ごみ、不燃ごみの料金体系も調整しつつ、プラスチックでも手数料を徴収する、要は組み合わせるといふ形である。

市長

別の袋が出てきて、それも買ってもらおうということか。

資源循環部長

その通りである。

総合政策局長

分別収集の手数料水準設定例として、現状の0.8からパターン3だと可燃・不燃ごみ1.2ということだと、50%の値上げということになる。

そこまで覚悟を決めてやるというのはあるかなとは思いますが、プラスチックの資源回収のための袋ももちろん導入するが、それだけでは賄いきれないので、可燃・不燃ごみを上げるということになると、議会への説明が難しく、市民の反発も出てくるのではないかと。

本当に手数料水準を、可燃・不燃ごみまでに影響させるのかどうかというところは、慎重に検討しなければいけないのではないかと。

市長

プラの分別収集実施のためのスケジュールに、温暖化対策実行計画の目標達成のためには、2029年度までには分別収集を実施する必要があると書かれているが、温暖化対策実行計画の目標の年次は30年度なので、1年分でこれを実施しなければいけないということなのか。

資源循環部長

遅くとも2029年度に始めて減らさないと、30年度の数字に上がってこないということである。

市長 1年分でのプラの分別収集によりもたらされるCO2の削減量というのは、相当大きいということか。

資源循環部長 その通りである。

市長 本件の扱いについては一旦保留とする。
論点が出てきたと思うし、調整会議でもいくつか意見があったということなので、そこはどうか反映されたのか。
また、今日出た意見について、書くのはいかなものかといった意見もあったと思うので、それらへの対応について改めて個別に教えてもらいたい。
そうして中身を確認して進めていくという取扱いとする。

— 結果 —

方針決定は保留とする。後日、本会議における意見等への対応について付議局から報告を受け判断する。

5 照会先

- ・会議の運営について

総合政策局総合政策部政策調整課

TEL 043-245-5056

- ・議題について

環境局資源循環部廃棄物対策課

TEL 043-245-5237